

【資料1】

特別支援学校キャリア教育全体学習計画（例）

<p>キャリア教育の目的</p> <p>ライフステージや発達段階に応じて求められる役割を果たそうとする意欲や具体的な力を身につけ、社会参加と自立、豊かな生活の実現を図る</p> <p><キャリア教育の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・勤労観、職業観の育成 ・家庭生活、社会生活に必要な知識や技能の育成 ・自主的、主体的に活動する力の育成 	<p>■ 学校教育目標 ■</p> <p>一人一人に自立と社会参加の基礎となる生きる力を育成し、みんなとともに、自分らしく生きる力を実現する</p> <p><目指す子ども像></p> <p>自分から、自分で、自分らしく、みんなとともにいきいきと生活する子ども</p>	<p>教育関係法規</p> <p>日本国憲法、教育基本法、学校教育法、学習指導要領、岩手県学校教育指導指針等</p>
<p>■ 学部目標 ■</p> <p><小学部>健康な身体づくりと日常生活習慣の確立を目指し、身近な人や社会への関心を高める</p> <p><中学部>集団や他者との関係の中で、自ら選び、自ら活動し、「自己」を発揮する</p> <p><高等部>社会の中で自分の個性や力を発揮し、生涯にわたって充実感をもち続けて生活する姿を実現する</p>		<p>児童生徒・保護者の願い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のことは自分でできるようになりたい ・毎日、元気に楽しく生活したい ・地域の中に友達がほしい ・いろいろな事に挑戦し、やりたい仕事を見つめたい ・家から遠くないところで働きたい等

<p>■ 進路支援部 方針 ■</p> <p>児童生徒・保護者の思いや願いを支え、その実現に向けた適切な支援ができるよう、小学部からの組織的、系統的なキャリア教育を推進する</p> <p><主な事業内容></p> <p>進路に関する学習の計画、職場開拓、実習渉外、卒後指導、進路研修会、支援会議など</p>	<p>■ キャリア教育 学部方針 ■</p> <p><小学部>生活に即した体験的学習をとおして、自分から、自分で物事に取り組みようとする意欲・態度及び日常生活に必要な力が身に付くよう支援する</p> <p><中学部>校外学習や作業学習をとおして、社会生活に対する関心を高め、みんなとともに働くことや自分らしさを表現する力が身に付くよう支援する</p> <p><高等部>実習や販売活動等をとおして社会生活に必要な実際の知識・技能を身に付けると共に職業に対する理解を深め、自己実現の道筋をつかめるよう支援する</p>
--	---

■ 各学部段階におけるキャリア発達能力の目標 ■			
各学部段階	小学部	中学部	高等部
職業（進路）発達段階	身辺自立の確立と人間関係の基盤形成	社会生活能力と自己表現力の育成	社会生活能力の確立と自己選択・自己決定力の育成
職業に 関する 発達 領域 領域 領域	<p>かかわる力（人、もの、情報とよりよくかかわる力）</p> <p>えがく力（夢・目標・見通し・役割をえがく力）</p> <p>もどめる力（より良い方向に向けて選ぶ・決定する力）</p>	<p>○人や物に対して興味・関心をもつ</p> <p>○いろいろな仕事があることを知る</p> <p>○自分で選ぶことができる</p>	<p>○周囲の人と協力して活動する</p> <p>○見通しをもって役割に取り組む</p> <p>○自分で決めたことに責任をもつ</p>
領域 領域 領域	<p>はたらく力（学習や作業を行う力、役割を果たす力）</p> <p>生活する力（家庭生活や社会生活を行う力）</p> <p>たのしむ力（余暇を活用し、生活を楽しむ力）</p>	<p>○学習や遊びに進んで取り組む</p> <p>○身の周りのことが自分でできる</p> <p>○好きなことに集中して取り組む</p>	<p>○基本的な働く力を身に付ける</p> <p>○基本的生活習慣を身に付ける</p> <p>○地域資源を活用して楽しむ</p>
領域 領域 領域		<p>○場面や目的に応じて適切にかかわる</p> <p>○夢への見とおしをえがく</p> <p>○より良い方法を自分で判断する</p>	<p>○主体的に働く力を身に付ける</p> <p>○社会生活に必要な力を身に付ける</p> <p>○趣味を広げたり、深める方法を知る</p>

■ 各教科・領域等におけるキャリア発達能力の指導目標 ■							
教科別の指導	領域別の指導		領域・教科を合わせた指導				総合的な学習の時間等（交流・共同学習・地域活動）
	特別活動	自立活動	日常生活の指導	遊びの指導	生活単元学習	作業学習	
小学部	日常生活を主体的に暮らすために必要な基本的な概念や知識・技能を身に付ける	クラブ活動や交流学習をとおして、自分から活動しようとする意欲を高める	生活の流れに沿って、必要な支援を受けながら、衣服の着脱や排泄、食事などができる	遊びをとおして「人、もの、ものごと」に自発的にかかわろうとする意欲を育てる	生活に結び付いた活動を意欲的、主体的に取り組み、成就感を味わう		
中学部	社会生活に必要な基本的な知識や技能を身に付け、生活の中に生かすこと	学級や生徒会の中で決められた役割を果たしたり、余暇を楽しんだりすることができる	絵カードや機器等で自分の意思を伝える。スケジュールに沿って行動する	友だちと協力して係活動を行ったり、スケジュールを見て一人で行動できる	社会的な意義をもつ活動をとおして、社会生活への知識・技能・関心を高める	作業をとおして、働くことの意義や喜びを感じ、働くことに慣れる	出身地域のイベントに参加したり、公共施設を利用したりできる
高等部	社会参加と自立に必要な知識や技能を身に付け、主体的に表現・判断・決定できる	自分たちで、必要なことを調べ、話し合っって計画を立てて活動することができる	生活に見通しをもって、安定して課題に取り組むことができる	自主的、主体的に係活動や生活に必要な活動を自分で判断しながら行うことができる	行事等の計画を自分たちで立て、実行し、自主的、主体的活動を行う	作業や実習をとおして、作業能力を高めたり、社会生活に必要な知識・技能を身に付ける	出身市町村の歴史や文化・観光を調べ、発表できる

キャリア教育推進の基盤					
専門性の向上	保護者との連携	地域との連携	関係機関との連携	校内の組織づくり	啓発活動
<ul style="list-style-type: none"> ・自主的、主体的な活動を促す具体的な支援の方法 ・児童生徒の思いを育てるキャリアカウンセリング 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路研修会 ・連絡帳の活用 ・二者・三者面談 ・ケース会議、支援会議 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の祭りへの参加 ・交流・共同学習 ・地域資源の活用 ・居住地交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉、医療、労働機関との定期的な情報交換 ・支援会議の開催 ・他校との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体推進計画 ・全体学習計画 ・学部、学年、校務分掌間の連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校HPによる発信 ・関係会議等による活動 ・リーフレット

—— 特別支援学校 キャリア教育学習プログラム① 枠組み（例） ——

		幼稚園・保育所 早期療育	小学部		中学部	高等部	卒業後
			1～3年	4～6年			
進路発達段階		生活基盤形成	身辺自立の確立と人間関係の基盤形成		社会生活能力と自己表現力の育成	社会生活能力の確立と自己選択・自己決定力の育成	社会的移行
各発達段階における 主なねらい		・生活リズムを整える ・身辺処理に関心をもつ ・認知能力を高める ・自他への関心を高める	・身の回りのことが自分でできる ・学習や遊びに進んで取り組む ・コミュニケーション能力を育てる ・地域や社会への関心を育てる		・基本的な生活習慣を身に付ける ・自主性・主体性を育てる ・作業能力を育てる ・コミュニケーション能力を高める ・地域や社会への参加を促す	・生活を豊かにするための基礎的な知識・技術・態度を身に付ける ・主体的に働く力を育てる ・社会生活に必要な力を育てる ・自己選択、自己決定力を育てる	・職場への適応 ・地域社会への適応 ・余暇活動、生き方
勤労観・職業観		勤 労 観 の 形 成				職 業 観 の 育 成 (○実際の働く力、○職業的な自立に必要な力)	
		(○日常生活動作と基本的な生活習慣に関する力 ○社会生活、家庭生活に主体的に参加し役割を果たす力)					
領域	能力	各学部や発達段階におけるキャリア発達の系統イメージ・関係する教科・領域の活動例					
職業的(進路)発達課題に関する領域	かわる力	あいさつ・返事をする		感謝する	協力・信頼する	場面や目的に応じたコミュニケーションを図る	
	えがく力	感情を表す		自分の望み(夢)を表す	望み(夢)をかなえる方法がわかる	夢の実現に向けて努力する	
	もつめる力	自分で決めようとする		自分で選択できる	自分で決めたことに責任を持つ	より良い方法や内容を選択する	
	はたらく力	頼まれたことができる		様々な役割があることを知る	自分の役割がわかる	自分の役割を果たす	
実際の力の領域	生活する力	基本的な動作ができる		身のまわりのことができる	社会生活に必要な力が身につく	社会生活における様々な知識・技能を身につける	
	たのしむ力	欲求を表現できる		好きなことをやろうとする	好きなことをやるための手段がわかる	自分の興味・関心に基づいた活動ができる	
	たのしむ力	余暇を活用し、生活を楽しむ		余暇を活用し、生活を楽しむ	余暇を活用し、生活を楽しむ	余暇を活用し、生活を楽しむ	

<学校外における支援内容>

一人一人のニーズや特性を考慮し、本人・家族・関係者の夢をつなぎかなえる「個別の支援計画(個別的教育支援計画・個別の移行支援計画)」による連携

関係機関	役割	支援内容	支援内容	支援内容	支援内容	支援内容
家庭	<役割> 障害を正しく理解し、あたたかく養育する 一番身近な支援者として本人の気持ちにより添う	早期発見・早期療育 障害理解・受容 安定した母子関係の確立 医療・相談機関との連携	学校・医療・福祉との連携 日常生活動作や基本的な生活習慣の支援・教育 安らぎの場としての機能 福祉・進路情報の収集 地域活動への参加支援 福祉サービスの利用	左に追加：自主的活動の支援 主体性の育成 性についての支援	左に追加：進路先への理解 進路に向けた支援体制の確立	左に追加：本人活動の支援 金銭管理等の必要最低限の支援、精神的な支え
地域	<役割> 地域の一員として受け入れ、必要な支援を行う。家族を支援する	障害の理解 家族支援	障害の理解 こども会活動への参加支援 地域行事への参加支援	障害の理解 地域行事への参加支援 地域への受け入れ	障害の理解と支援 実習の受け入れ 地域への受け入れと具体的な支援	障害の理解と支援 地域への受け入れ 本人への具体的な支援
関係機関	<役割> 本人・家族の気持ちを大切にしながら、本人・家族の幸せを守るための必要な支援を行う	保健：早期発見、早期療育 行政：就学指導 福祉：福祉制度の活用案内、福祉サービス	保健：定期的観察 行政：就学指導、福祉サービスの案内 福祉：福祉サービスの提供	保健：定期的観察 労働：情報提供 福祉：福祉サービスの提供	保健：定期的観察 労働：就職の斡旋、職業訓練 福祉：福祉サービスの提供	保健：定期健診、加齢対策 労働：職場指導 福祉：福祉サービスの提供

【社会参加と自立

・豊かな生活の実現】

「自分から自分で自分らしく

自分らしくみんなとともに

生き生きと暮らす人」

【資料3】

キャリア教育学習プログラム②「各教科・領域等」(例)

		各学部段階毎の教科・領域等の学習のねらいと達成目標						
		ねらい・関連	小学部(1~3年)	小学部(4~6年)	中学部	高等部		
国語	<p><全体のねらい> 日常生活や社会生活の中で必要な国語の力を育て、自分の気持ちを表現したり、相手の話を理解する能力を育てることで、コミュニケーション能力、自己表現能力、余暇活用能力等を高める。</p> <p><キャリア発達能力との関連> 「かかわる力」 「えがく力」 「たのしみ力」</p>	<p>ねらい ことばに対する興味・関心をもつ。日常生活に必要なことばがわかる。</p> <p>達成目標 か 簡単な質問に対して意思表示ができる。 か 身のまわりの物の名前がわかる。 え 自分の気持ちを表現できる。</p> <p>題材例 「ものなまえ」 「どっちがすき」 「おはなしをきこう」</p>	<p>ねらい 日常生活に必要な基本的なことばがわかり、使うことができる。</p> <p>達成目標 か ひらがなで書かれた自分の名前を選ぶ。 か その場にふさわしいあいさつができる。 た 友達や先生といろいろな会話ができる。</p> <p>「ひらがな」 「あいさつをしよう」 「できごとを話そう」</p>	<p>ねらい 日常生活に必要なことばの理解を深め、社会生活や職業生活の基礎を育てる。</p> <p>達成目標 か 簡単な文章を書いたり読んだりできる。 え 自分の気持ちをことばで伝えることができる。 た テレビのニュース等に興味や関心をもつ。</p> <p>「遠足の作文を書こう」 「友達の発表を聞こう」 「ニュース調べ」</p>	<p>ねらい 日常生活や社会生活に必要なことばの理解を深め、適切に活用することができる。</p> <p>達成目標 か お礼状や年賀状を書くことができる。 え 自分の気持ちを適切に相手に伝えることができる。 た 物語、劇、放送などを見て楽しみ、感想を話す。</p> <p>「実習のお礼状を書こう」 「10年後の自分」 「芸術鑑賞会の感想」</p>			
	算数・数学	<p><全体のねらい> 日常生活や社会生活の中で必要な数量や図形、計算などに対する興味関心を高め、活用する能力を身に付けることで、課題解決能力や作業能力等を高める。</p> <p><キャリア発達能力との関連> 「えがく力」 「はたらく力」 「生活する力」</p>	<p>ねらい 色、形、大きさの違いに気付き、対応したり、集めたりすることができる。</p> <p>達成目標 え 大きい方をえらぶことができる。 は 積み木を積んだり、カードを並べたりできる。 生 朝、昼、夜の違いがわかる。</p> <p>題材例 「大きさ比べ」 「積み木あそび」 「色合わせ」</p>	<p>ねらい 初歩的な数量や図や形、位置、時計の理解、簡単な計算をすることができる。</p> <p>達成目標 え 5までの数の合成・分解ができる。 は 友達に1枚ずつカードを配ることができる。 生 時計やチャイムで給食の時間がわかる。</p> <p>「ぜんぶでいくつ」 「どっちが重い」 「すころくゲーム」</p>	<p>ねらい 日常生活に必要な数量や図形に関する理解を深め、生活で活用することができる。</p> <p>達成目標 え 10までの数を確実に数えることができる。 は 3桁の数字を読むことができる。 生 時計や暦の見方がわかる。</p> <p>「お金の種類」 「加減乗除」 「カレンダーづくり」</p>	<p>ねらい 生活に必要な数量や図形などに関する理解をさらに深め、活用することができる。</p> <p>達成目標 え 決められた金額内で買い物ができる。 は 長さ、重さの単位の関係がわかり、活用できる。 生 自分で時計を見ながら、行動することができる。</p> <p>「こづかい帳」 「単位の学習」 「時刻表」</p>		
		音楽	<p><全体のねらい> 表現及び鑑賞する力を培い、音楽に対する興味関心を高めることで、生活を明るく楽しいものにしようとする余暇活用能力や自己表現能力等を高める。</p> <p><キャリア発達能力との関連> 「かかわる力」 「えがく力」 「たのしみ力」</p>	<p>ねらい 音の高さやリズムの違いに気付き、自分から音楽に親しもうとする態度を育てる。</p> <p>達成目標 か 自分から楽器に手を伸ばし音を鳴らす。 え 友だちと一緒に声を出して楽しむ。 た 好きな曲を楽しみながら大きく。</p> <p>題材例 「がっきあそび」 「からだあそびうた」 「音楽鑑賞」</p>	<p>ねらい 簡単な歌やメロディーに合わせて歌ったり、身体を動かして楽しんだりすることができる。</p> <p>達成目標 か 友だちと一緒に歌ったり、身体を動かす。 え 自分の好きな楽器で簡単なリズムをとる。 た 好きな曲を歌ったり、リズムをとる。</p> <p>「簡単な合奏」 「今月のうた」 「音楽鑑賞」</p>	<p>ねらい 色々な音楽の違いを楽しみながら聞いたり、自分なりに表現することができる。</p> <p>達成目標 か 友だちと声を合わせて歌うことができる。 え 身体を使って、曲の楽しさを表現する。 た 生活の中で音楽を楽しむことができる。</p> <p>「日本や世界の音楽」 「合奏」 「コンサートを開こう」</p>	<p>ねらい 音楽を活用して、生活が明るく楽しくなるように工夫したり、自分なりに楽しんだりする。</p> <p>達成目標 か みんなと協力して、歌ったり演奏する。 え 一人でみんなの前で歌ったり演奏する。 生 生活の中で音楽を楽しむことができる。</p> <p>「合唱」 「日本の楽器に親しもう」 「発表会をしよう」</p>	
			指 導 図画工作・美術	<p><全体のねらい> 造形活動や鑑賞をとおして、感覚・運動機能の発達を促し、様々な技能の習得や情操を豊かにすることで、自己表現能力や作業能力、余暇活用能力等を高める。</p> <p><キャリア発達能力との関連> 「かかわる力」 「えがく力」 「たのしみ力」</p>	<p>ねらい 身近にあるものへ触れたり、力を加えたりして造形遊びを楽しむことができる。</p> <p>達成目標 か さまざまな感触のものを触ったり握ったりする。 え ねんど等で自分なりの形を作ることができる。 た 様々な感触を楽しみ、自分がかかわろうとする。</p> <p>題材例 「砂場あそび」 「スタンプあそび」 「ねんどだんごづくり」</p>	<p>ねらい 造形活動をとおして、はさみやのり、絵の具などの使い方に慣れ、楽しむ。</p> <p>達成目標 か 友だちの作品を見て、自分との違いに気付く。 え 身近な人の顔を描くことができる。 た 素材の違いや色を楽しむ。</p> <p>「友だちをかこう」 「貼り絵づくり」 「オープン陶芸」</p>	<p>ねらい 様々な道具の使い方に慣れ、基礎的な表現力や鑑賞力を伸ばす。</p> <p>達成目標 か はさみやカッターを適切に使うことができる。 え 自分で色を選んで、表現することができる。 た 友だちの作品や芸術作品を楽しむ。</p> <p>「切り絵」 「季節の花の絵」 「木版画」</p>	<p>ねらい 素材にあった道具を適切に使って、創造的な作品を制作し、生活を豊かにする。</p> <p>達成目標 か 他人の作品の良いところを見つけることができる。 え 自分の気持ちや体験を絵に表すことができる。 た 作品づくりに楽しんで取り組む。</p> <p>「標語ポスター」 「オリジナルメダル作り」 「共同作品」</p>
				体育・保健体育	<p><全体のねらい> 運動をとおして、各種運動の技能や体力を身に付けたり、健康で安全な生活を営むための態度や望ましい人間関係を育んだりすることで、コミュニケーション能力、自己表現能力、健康管理能力を高める。</p> <p><キャリア発達能力との関連> 「かかわる力」 「えがく力」 「はたらく力」</p>	<p>ねらい 運動遊びをとおして、体力の増進や身体を動かすことを楽しむことができる。</p> <p>達成目標 か みんなと一緒に歩いたり、活動できる。 え おにごっこなどのルールがわかる。 は 自分で、目的の所まで歩いたり走ったりできる。</p> <p>題材例 「ボール遊び」 「町内探検(散歩)」 「かけっこ」</p>	<p>ねらい 器具や用具を使って安全に遊んだり、簡単なルールに従ってゲームができる。</p> <p>達成目標 か トランポリンやフラフープであそぶ。 え ゲームの中の自分の役割を果たそうとする。 は 安全に気をつけて活動することができる。</p> <p>「サーキット運動」 「転がしバレー」 「そり遊び」</p>	<p>ねらい 簡単なスポーツやダンスをとおして互いに協力して安全に運動することができる。</p> <p>達成目標 か 器具や用具を安全に扱うことができる。 え 簡単なゲームを自分たちだけ行う。 は 時間いっぱい体を動かすことができる。</p> <p>「バドミントン」 「リレー」 「スキー、そり遊び」</p>
職業・家庭					<p><全体のねらい> 職業生活及び家庭生活に必要な基礎的な知識と技能の習得を図り、実践的な態度を育てたり、社会参加への見とおしや夢を育むことで、将来設計能力、自己決定力、日常生活能力を高める。</p> <p><キャリア発達能力との関連> 「えがく力」 「もとめる力」 「生活する力」</p>			<p>ねらい 家庭に関する基礎的な知識技能を身に付けたり、社会生活への関心を高める。</p> <p>達成目標 え 家庭生活の大切さに気付くことができる。 も 自分のやりたい仕事の情報を調べる。 生 簡単な調理を安全に注意して行うことができる。</p> <p>「家の人の仕事調べ」 「インターネット」 「調理実習」</p>

* ㊦ … かかわる力, ㊥ … えがく力, ㊤ … もとめる力, ㊢ … はたらく力, ㊡ … 生活する力, ㊠ … たのしみ力

		各学部段階毎の教科・領域等の学習のねらいと達成目標				
		ねらい・関連	小学部（1～3年）	小学部（4～6年）	中学部	高等部
領域別	特別活動	<p><全体のねらい> 学級活動、生徒会活動、クラブ活動、学校行事などの集団活動や交流学習をとおして、集団での役割を果たしたり、興味関心に基づいた調べ学習を行ったりすることで、社会生活に主体的に参加する態度を高める。</p> <p><キャリア発達能力との関連> 「かかわる力」 「えがく力」 「もとめる力」</p>	<p>ねらい 交流学習や行事をとおして、多くの人とかかわることに慣れる</p> <p>達成目標 か 初めて会う人にも適切にかかわることができる活動に最後まで参加できる え 自分から、参加しようとする意欲をもつ</p> <p>題材例 「小学校との交流」 「学習発表会」 「町内探検」</p>	<p>ねらい クラブ活動や交流学習をとおして、自分から活動しようとする意欲を高める</p> <p>達成目標 か 他のクラスの人とも仲良く活動できる活動に見通しをもって参加できる え 自分でやりたい活動を選ぶことができる</p> <p>題材例 「クラブ活動」 「学習交流（小学校）」 「話し合い活動」</p>	<p>ねらい 学級や生徒会の中で決められた役割を果たしたり、余暇を楽しむことができる</p> <p>達成目標 か 他の学年の人と協力して活動できる え 与えられた計画に沿って活動することができる も 自分の興味のあることをパソコン等で調べる</p> <p>題材例 「委員会活動」 「クラブ活動」 「お楽しみタイム」</p>	<p>ねらい 自分たちで、必要なことを調べたり、話し合っって計画を立てて活動することができる</p> <p>達成目標 か 他の人の意見も大切にしながら話し合える え 自分で計画を立てて、活動することができる も より良い方向になるように考えることができる</p> <p>題材例 「学級新聞づくり」 「委員会・生徒会活動」 「クラブ活動」</p>
	自立活動	<p><全体のねらい> 児童生徒の障害の実態に応じて情緒の安定や認知等の概念形成、コミュニケーション、手動の選択や活用に対する指導を行うことで、生活に主体的に参加できる力を高める。</p> <p><キャリア発達能力との関連> 「かかわる力」 「はたらく力」 「生活する力」</p>	<p>ねらい 外部からの刺激に対して、反応したり、かかわろうとする態度を高める</p> <p>達成目標 か 音や光などの刺激に反応することができる は ものをにぎったり、はましたりできる 生 快・不快を表現することができる</p> <p>題材例 「ミラーボール」 「音の出る玩具」 「リラクゼーション」</p>	<p>ねらい 具体物や絵カード等を利用して、基本的な認知の概念形成を促す</p> <p>達成目標 か 欲しいものを選び、伝えることができる は 小さな物をつまんだりまわしたりできる 生 落ち着いて課題に取り組むことができる</p> <p>題材例 「どちらが大きい」 「簡単なパスル」 「のれん作り」</p>	<p>ねらい 絵カードやVOCA等で自分の意思を伝える。スケジュールに沿って行動する</p> <p>達成目標 か 自分の意思を何らかの手段で伝える は 一人で取り組める課題がある 生 スケジュールに沿って行動することができる</p> <p>題材例 「カレンダーワーク」 「個別課題学習」 「作業」</p>	<p>ねらい 生活に見通しをもって、安定して課題に取り組むことができる</p> <p>達成目標 か 集団の中でも落ち着いて行動できる は 一人で取り組める課題が複数ある 生 友だちと一緒に移動したり、働いたりできる</p> <p>題材例 「カレンダーワーク」 「個別課題学習」 「作業」</p>
領域別	日常生活の指導	<p><全体のねらい> 一日の生活の流れに沿った生活に必要な実質的な諸活動を毎日回復して行うことで、望ましい生活習慣の形成を促し、基本的な生活能力を高めるとともに主体的に活動する態度を高める。</p> <p><キャリア発達能力との関連> 「かかわる力」 「はたらく力」 「生活する力」</p>	<p>ねらい 生活の流れに沿って、支援を受けながら、衣服の着脱や排泄、食事などができる</p> <p>達成目標 か 教師と一緒に、あいさつや返事ができる は 教師と一緒に、当番などの役割ができる 生 トイレで一人で用をたすことができる</p> <p>題材例 「着替え」 「朝の会」 「トイレタイム」</p>	<p>ねらい 少しの支援で、移動、持ち物管理、着替え、排泄、係活動、食事などができる</p> <p>達成目標 か あいさつや返事をすることができる は 決められた係活動を一人でできる 生 困ったときは支援を求めることができる</p> <p>題材例 「着替え」 「朝の会」 「朝の学習」</p>	<p>ねらい 友だちと協力して係活動を行ったり、スケジュールを見て一人で行動したりできる</p> <p>達成目標 か 友だちや教師に出来事を話すことができる は 協力して係活動やそうじを行うことができる 生 日常生活に必要なことがほぼ一人でできる</p> <p>題材例 「朝の会」 「朝の学習」 「そうじ」</p>	<p>ねらい 自主的、主体的に係活動や生活に必要な活動を自分で判断しながら行うことができる</p> <p>達成目標 か 他人のことを思いやることができる は 自分から係活動に取り組むことができる 生 日常生活に必要なことを一人で行うことができる</p> <p>題材例 「朝の会」 「朝の学習」 「そうじ」</p>
	遊びの指導	<p><全体のねらい> 遊びをとおして、身体活動を活発にし、仲間とのかかわりを促したり、意欲的な活動を育てる。興味や活動の幅を広げ、自らかかわろうとする意欲や自発性を育てる。</p> <p><キャリア発達能力との関連> 「かかわる力」 「もとめる力」 「たのしみむ力」</p>	<p>ねらい 「人、もの、ものごと」に自発的にかかわろうとする意欲を育てる</p> <p>達成目標 か 人やものに興味をしめす も 自分から好きな遊びに取り組む た 人やものとのかかわりを楽しむことができる</p> <p>題材例 「自由あそび」 「ゲーム」 「公園であそぼう」</p>			
領域別	生活を合わせた指導	<p><全体のねらい> 生活上の課題や問題解決のための一連の活動をとおして、自立的な生活に必要な事柄を実践的、総合的に学習することで、日常生活や社会生活に必要な力を育てる。</p> <p><キャリア発達能力との関連> 「えがく力」 「もとめる力」 「生活する力」</p>	<p>ねらい</p> <p>達成目標 え 自分がやりたいことをイメージできる も 試行錯誤しながら課題に取り組む 生 お金の価値がわかり、大切に扱う</p> <p>題材例 「買い物に行こう」 「パザールをしよう」 「遠足」</p>	<p>ねらい 生活に結び付いた活動を意欲的、主体的に取り組み、成就感を味わう</p> <p>達成目標 え 自分がやりたいことをイメージできる も 試行錯誤しながら課題に取り組む 生 お金の価値がわかり、大切に扱う</p> <p>題材例 「買い物に行こう」 「パザールをしよう」 「遠足」</p>	<p>ねらい 社会的な意義をもつ活動をとおして、社会生活への知識・技能・関心を高める</p> <p>達成目標 え 主な公共施設の役割がわかる も 自分の役割を選ぶことができる 生 指示された金額を渡すことができる</p> <p>題材例 「老人ホーム訪問」 「電車やバスで買い物」 「卒業アルバム」</p>	<p>ねらい 行事等の計画を自分たちで立て、実行し、自主的、主体的な活動を行う</p> <p>達成目標 え 自分で目標を立てて取り組むことができる も より良いものになるように工夫することができる 生 公共施設や交通機関を利用することができる</p> <p>題材例 「クラスマッチ」 「高等部まつり」 「カラオケに行こう」</p>
	作業学習（実習）	<p><全体のねらい> 将来の職業生活や社会自立に向けて、作業や実習をとおして、働くことの意義や喜びを知ったり、働くための知識や技能を身に付けたりする。</p> <p><キャリア発達能力との関連> 「かかわる力」 「えがく力」 「はたらく力」</p>	<p>ねらい</p> <p>達成目標</p> <p>題材例</p>	<p>ねらい 作業をとおして、働くことの意義や喜びを感じ、働くことに慣れる</p> <p>達成目標 か 分担・協力して作業に取り組む え 手順表や見本を見て、やる内容がわかる は 働くことに慣れ、当たり前前に作業ができる</p> <p>題材例 「園芸・紙工・手芸等」 「校内実習」 「販売活動」</p>	<p>ねらい 作業や実習をとおして、作業能力を高めたり、社会生活に必要な知識・技能を身に付ける</p> <p>達成目標 か 決まりや礼儀を守って、人とかかわる え 目標や夢を描き、計画を立てて取り組む は 働くことの意義を理解し精一杯働く</p> <p>題材例 「園芸、製菓、木工等」 「職場体験・就業体験」 「販売活動」</p>	

各教科・領域等年間題材一覧表(例) 小学部高学年(通常学級)

* 月ごとの行事及び各教科等の関連性や、年間を通した各教科等の系統性や関連性をみる

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
教科・領域を合わせた指導	日常生活の指導10	「着替え」 「朝の会」 ・カレンダーワーク ・当番・かかり ・あいさつ 「そうじ」 「身体計測」 ・保健室の使い方	「着替え」 「朝の会」 ・カレンダーワーク ・当番・かかり ・あいさつ 「そうじ」 「手洗いとうがい」 ・手洗い ・うがい	「着替え」 「朝の会」 ・カレンダーワーク ・当番・かかり ・あいさつ 「そうじ」 「歯みがき」 ・はみがきチェック	「着替え」 「朝の会」 ・カレンダーワーク ・当番・かかり ・あいさつ 「そうじ」 「じぶんのもの」 ・にもつチェック	「着替え」 「朝の会」 ・カレンダーワーク ・当番・かかり ・あいさつ 「そうじ」 「にもつの整理」 ・かける ・かさねる	「着替え」 「朝の会」 ・カレンダーワーク ・当番・かかり ・あいさつ 「そうじ」 「ひなんくんれん」 ・合い言葉はおかし	「着替え」 「朝の会」 ・カレンダーワーク ・当番・かかり ・あいさつ 「そうじ」 「個別の学習」 ・パズル	「着替え」 「朝の会」 ・カレンダーワーク ・当番・かかり ・あいさつ 「そうじ」 「個別の学習」 ・めいろ	「着替え」 「朝の会」 ・カレンダーワーク ・当番・かかり ・あいさつ 「そうじ」 「個別の学習」 ・ぬりえ	「着替え」 「朝の会」 ・カレンダーワーク ・当番・かかり ・あいさつ 「そうじ」 「個別の学習」 ・えほん	「着替え」 「朝の会」 ・カレンダーワーク ・当番・かかり ・あいさつ 「そうじ」 「おわかれ会に向けて」 ・よせがき	「着替え」 「朝の会」 ・カレンダーワーク ・当番・かかり ・あいさつ 「そうじ」 「まとめの会に向けて」 ・メッセージ
	生活単元学習5	「はるだわくわく！」 ・新しい学級を知ろう ・歓迎会をしよう ・学校探検をしよう ・みんなで遊ぼう	「そとにでかけよう」 ・うれしい春 ・母の日 ・野菜を作ろう ・町探検をしよう ・お楽しみ会	「おくろう!けんこうでたのしいせいかつ」 ・じょうぶな体を作ろう ・室内での遊びを知ろう ・お楽しみ会	「なつだげんきに」 ・水遊び ・宿泊学習 ・夏休みのくらし	「たのしかったなつやすみ」 ・ゲームしよう ・夏休みの思い出をまとめよう	「親子であそぼう」 ・ゲームしよう ・親子競争の練習をしよう(運動会)	「たのしいあき」 ・買い物しよう ・秋の遠足にしよう ・ハザをしよう(作品作り)	「ともだちの輪をひろげよう」 ・小学校と交流しよう ・野菜の収穫・調理実習	「ふゆのおもいで」 ・お正月をたのしくすごそう ・クリスマス会 ・餅つき会	「寒さなんかにまけないぞ」 ・冬休みの思い出 ・ゆきあそび	「おわれかいをたのしもう」 ・お世話になった人に感謝しよう ・お別れ会をしよう	「もうすぐしんきゅう」 ・卒業生を送る会と卒業式 ・まとめの会をしよう
教科	国語2	「みんなの名前」 ・自分の名前 ・友達の名前 「みのまわりのもの」 ・身の回りの物 ・欲しい物 「あいさつ(1)」 ・あいさつの言葉	「あいさつ(2)」 ・あいさつの種類 ・新しい春 「お母さんへの手紙」 ・お母さんの仕事 ・感謝の手紙 「おつかい」 ・伝言と報告 ・伝言と報告 ・おつかい	「いろいろなしるし」 ・校内にある表示や標識 ・校外にある表示や標識 「でんわごっこ」 ・電話機の使い方 ・取り次ぎと伝言	「えにっき」 ・きのうのできごと ・絵をかく文を書く ・絵日記のかき方 「うんどうかい」 ・めあてづくり ・日課表づくり ・お礼の手紙	「なつやすみのおもいで」 ・夏休みの思い出 ・感想のまとめ	「もののなまえ(1)」 ・身に着ている物 ・運動会や日常生活で使う物 「うんどうかい」 ・招待状 ・プログラム	「もののなまえ(2)」 ・遠足の持ちもの ・地名 「ちらしづくり」 ・ハザのチラシ 「ものがたり」 ・本を選ぶ ・本を読む ・読み聞かせ ・みんなで読む	「ことばあそび」 ・読みのはじめが同じことば ・名前カルタ取り ・書き方 「はがき」 ・本を選ぶ ・本を読む ・感想	「はがきとてがみ」 ・はがきと手紙の区別 ・はがきや手紙の書き方 「ねがじょう」 ・年賀状の書き方 ・感想	「かきぞめ」 ・学年と名前 ・手本の字 ・清書 「アナウンサー」 ・お知らせ ・アナウンサー ・感想	「げきのまっぴょう」 ・読み聞かせ ・あらすじ ・脚本 「セリフの暗記」 ・動作 ・みんなと練習 ・発表 ・鑑賞	「1ねんかんのおもいで」 ・1年間の思い出 ・お礼の手紙 ・大きな声で発表
	算数2	「けんがくをしよう」 ・5までの数 ・一対の数 「なかまあつめ」 ・仲間集め ・仲間分け 「くらべよう(1)」 ・大小の比較 ・長短の比較他	「かずのおけいこ」 ・数詞と数 ・大きさ比べ 「あわせていくつ」 ・集合数 ・数の合成・分解 「ボウリングゲーム」 ・倒れ数と残った数 ・合わせた数他	「じこくとじかん」 ・時刻 ・時間 「にっかひょうとこよみ」 ・日課表や時間割 ・こよみ	「ジュースやさん」 ・水の量を比べる ・基準量で比べる ・かさの単位を知る ・ジュース屋さん 「かぞえてみよう(1)」 ・数を数える ・大きさ比べ ・何番目	「いろいろなかたち」とい ・形づくり ・かく ・切る 「色塗り」 ・仲間分け	「くらべよう(2)」 ・長さ比べ ・重さ比べ ・広さ比べ ・太さ比べ ・厚さ比べ ・比べましよう	「たしざん(1)」 ・足し算 「かいもの」 ・買い物練習 ・買い物	「かぞえてみよう(2)」 ・20より大きな数 「ひきざん(1)」 ・引き算 ・計算練習①② 「いろいろなかたち」 ・四角形づくり ・仲間分け	「あわせてみよう」 ・合わせるといくつ ・いくつに分けられる 「かげざん」 ・九九 ・具体物の分配 「わなげゲーム」 ・ゲーム	「お金の種類と名前」 ・乗り物と切符 「とけい」 ・時計と時間 ・生活カレンダー	「わけてみよう」 ・いろいろな数の合成と分解 ・分ける 「カレンダーを作ろう」 ・曜日と日付 ・四季や年中行事 ・カレンダー作り	「たしざん(2)」 ・足し算の意味 ・文章題 「ひきざん(2)」 ・引き算の意味 ・引き算の仕方 ・文章題
指導	音楽2	「ちゅうりっぷ」 ・歌唱 ・楽器遊び 「こいのぼり」 ・歌唱 ・歌詞の意味	「てをたたきましよう」 ・歌唱 ・楽器遊び 「もりのくまさん」 ・身体表現・歌唱	「かえるのうた」 ・歌唱 ・輪唱 「かたつむり」 ・身体表現 ・歌唱	「キャンプだホイ」 ・身体表現 ・歌唱 「さんさおどり」 ・盆踊りの体験発表 ・身体表現	「線路はつづくよこまでも」 ・歌唱 ・楽器遊び	「レッツゴーいいことあるさ」 ・鑑賞 ・リズム遊び ・身体表現	「さんぽ」 ・身体表現 ・歌唱 ・楽器 「もみじ」 ・鑑賞 ・歌唱	「きらきらぼし」 ・歌唱 ・楽器遊び 「バスごっこ」 ・歌唱 ・身体表現	「あわてんぼうのサンタクロース」 ・歌唱 ・打楽器練習 「いっしょにお買い物」 ・歌唱 ・身体表現	「なべなべそこぬけ」 ・歌唱 ・身体表現 「からだあそびうた」 ・歌唱 ・身体表現	「たき火」 ・歌唱 ・楽器遊び 「1年中のうた」 ・歌唱 ・歌詞づくり	「うれしいひなまつり」 ・身体表現 ・歌唱 「すだちのうた」 ・歌唱
	図画工作2	「はるのはな」 ・春の色 ・ちぎってはって 「こいのぼり」 ・はさみとのり	「いろみずあそび」 ・色水づくり 「ははのひ」 ・お母さんの絵	「きれいなもよう」 ・模様づくり ・なぞる ・彩色 「ねんどあそび」 ・粘土遊び ・動物広場	「おもいでえ」 ・お泊り会 ・下絵 ・はり絵	「おおきなえ」 ・水を使って ・地面にかく	「すなあそび」 ・砂山 「うんどうかい」 ・線がき ・色塗り ・色でかく ・鑑賞	「ともだちのかおのりもの」 ・顔の観察 ・顔の下絵 ・色塗り ・焼き物 ・陶板の模様つけ	「すごろく」 ・原画作成 ・すごろくづくり 「クリスマスツリー」 ・切り貼り ・かざりつけ	「ふゆやすみのおもいで」 ・下絵かき ・彩色と鑑賞	「おにのえ」 ・鬼の話 ・下絵と彩色 「木のとうぶつ」 ・形決め ・つける	「おくりもの」 ・贈り物の製作 ・ラッピング 「美術館見学」 ・鑑賞	
領域別指導	特別活動2	「あたらしいなかま」 「みんなのもの」	「せいけつ」 「あそびかた」	「じぶんのこと」 「みのまわりのこと」	「なつにくらし」 「きけんな遊び」	「なつやすみの体験」	「1がっきのはんせい」	「2がっきがばらう」 「マナー(乗り物)」	「あとかたづけ」 「はやねはやおき」	「のしるしやすみ」 「おこづかい」	「ストーブ(安全)」 「ともだち」	「いきもの」 「かんしゃ」	「わくわくをきれいに」 「1ねんのおわり」
	主な行事	入学式 歓迎会、児童総会 身体計測	校外学習(町内探検) スポーツテスト	お楽しみ会	宿泊学習	水泳記録会	運動会	秋の遠足	交流学習 作品展示・ハザ	クリスマス会	雪上教室	役員選挙 送る会	卒業式

【資料5】

特別支援学校 「進路支援」 全体年間計画 (例)

1 進路支援部方針

児童生徒・保護者の思いや願いを支え、その実現に向けた適切な支援ができるよう、小学部からの組織的、系統的なキャリア教育を推進する

2 キャリア教育学部方針

(小学部) 生活に即した体験的学習をとおして、自分から、自分で物事に取り組みようとする意欲・態度及び日常生活に必要な力が身に付くよう支援する
 (中学部) 校外学習や作業学習をとおして、社会生活に対する関心を高め、みんなと共に働くことや自分らしさを表現する力が身に付くよう支援する
 (高等部) 実習や販売活動等をとおして社会生活に必要な実的な知識・技能を身に付けると共に職業に対する理解を深め、自己実現の道筋をつかめるよう支援する

段階	小学部	中学部	高等部1年	高等部2年	高等部3年	進路支援部	
課題	身辺自立の確立と人間関係の基盤形成	社会生活能力と自己表現力の育成	社会生活能力の確立と自己選択・自己決定力の育成			<主な業務> キャリア教育 職場開拓 進路相談 実習渉外 進路関係手続き 進路情報発行 進路の手引き発行	
テーマ	<かかわる>	<ひろげる>	<知る>	<求める>	<決める・高める>		
目標	・身のまわりのことを自分でやる ・他者とのコミュニケーション手段をもつ	・役割について理解し、やりきる力をつける ・社会生活への興味・関心を広げる	・自己及び他者理解を図る ・職業について知る ・社会生活の基礎的な知識を得る	・適性にあった職種を求める ・より良い将来を求める力(選択)を付ける ・職業への意欲をもつ	・進路先を自己決定する ・知識・技能を高める ・社会生活への意欲を高める		
4月	進路希望調査(5・6年)	進路希望調査(2年・3年)	進路希望調査 学年別進路ガイダンス(進路学習・就職手続き等)			職場開拓(通年)	
5月	進路説明会(保護者)・学部別懇談会 進路学習(6年)	三者面談(3年・進路希望)	進路説明会(保護者)・学年懇談会	三者面談(実習先・進路先希望)		新年度版「進路の手引き」発行 「進路通信」	
6月	町内探検(3,4年) 社会見学(5,6年)	校内実習(1週間)	校外学習(卒業生進路先見学:企業・施設) 校内実習(1年)・職場体験実習(2年)・職場実習(3年):2週間	実習事前面接	校外学習(バレー・障害者職業体験) 実習事前面接		
7月	高等部実習見学(小5~中3) 進路学習(6年)	希望体験実習(2~3年)	保護者実習見学 三者面談(実習評価・進路希望確認・就労移行支援チェック)	希望体験実習	特定求職者求人登録 合同就職説明会	「進路通信」 同窓会(卒業生フォロ-)	
8月	親子地区別研修会(卒業生との交流・進路に関する研修・レクリエーションなど、各地区で企画)					職業評価	追指導(卒業生進路先訪問)
9月	町内探検(3,4年) 社会見学(5,6年)	高等部見学(2,3年) 校内実習(2週間)	校内実習・職場体験実習(1,2年)・職場実習(3年):2週間		職業評価	「進路通信」	
10月	作業単元(5,6年)	保護者実習見学 実習報告会	保護者実習見学 実習報告会				
11月	作品展示会及び販売会・バザー						「進路通信」
12月	進路学習(6年) 中学部見学(5,6年) 保護者進路研修会(講演会)	願書提出(3年)	進路希望調査・就労移行支援チェック		選考(施設・一般企業) 進路相談(進路先未定者) 特別実習先開拓・特別実習 個別の移行支援計画の作成		
1月		高等部入試(3年)				「進路通信」	
2月	進路学習(6年)	合格発表(3年)	校外学習(社会見学) 三者面談(進路の方向性)	校外学習(社会見学)	社会人講座		
3月	入学説明会(6年) <進級・卒業>	入学説明会(3年) <進級・卒業>	<進級>	<進級>	移行支援会議 同窓会説明会 <卒業>	「進路通信」	
その他	・高学年で生活単元学習に作業的な単元を入れる(20時間) ・6年で進路学習を年4回各4時間入れ、グループ別活動を行う	・作業学習を週6時間年間を通して実施する ・進路に関する学習を総合的な学習の時間に月1回2時間、年間20時間(8月と1月を除く)実施する	・作業学習を週12時間年間を通して実施する ・進路学習の時間を週2時間年間を通して実施する(教科書:「わたしたちの進路」) ・「すてーじ」の購読	・作業学習を週12時間年間を通して実施する ・進路学習の時間を週2時間年間を通して実施する(教科書:「わたしたちの進路」) ・「ひとりだち」 ・「すてーじ」の購読	・作業学習を週12時間年間を通して実施する ・進路学習の時間を週2時間年間を通して実施する(教科書:「ひとりだち」) ・「すてーじ」の購読と個人購入の斡旋	*「すてーじ」は手をつなぐ育成会発行の新聞(年4回発行)	

保護者のみ

児童生徒・保護者合同

児童生徒のみ

【資料6】

＜指導課題別段階表・系統表の紹介＞

個別の指導計画や年間指導計画，単元の指導計画等の個人目標の短期目標をステップ化する際には，指導課題の段階表や系統表があると参考になります。次に，参考になるとと思われる資料や図書を紹介します。

＜各教科等全般向け＞

1 文部省 学習指導要領解説 資料 「各教科の具体的内容」

●特殊教育諸学校小学部・中学部学習指導要領解説—養護学校（精神薄弱教育）編一（平成3年）著者 文部省 出版社 東洋館出版社
旧学習指導要領の解説や「日常生活の指導の手引き」「作業学習指導の手引き」等の巻末に付けられています。
養護学校の各教科等の指導の内容やおおよその順を1～5の段階で示しており，指導内容や段階を考える資料の基本となるものです。全ての教科・領域等で参考になります。

＜活用例＞ 就労に必要な指導課題順にまとめた例

	I (小学部)	II (中学部)	III (高等部・就職まで)
ト	一定の時刻に教師と一緒に用便に行く	一人で用便に行き，用をたす	便器のまわりを汚さないで用をたす
イ	尿意，便意，粗相を告げる	男女の便所の印を見て用をたす	便所のいろいろな表示がわかる
レ	パンツやズボンなどを脱がせてもらって用をたす	用便後一人でふき，服装を整える	自分の家や学校以外の便所も一人で使う
利用	教師と一緒に用便後，手を洗う	水洗便所の時は，使用後水を流す 用便後，手を洗う	出かけるときや集会の前などには自分から用をたす 夜中でも一人で用便に行く
食	教師と一緒に食前に手を洗う	一人で食前に手を洗う	簡単な食事の準備や後片付けをする
事	配膳の時に儀儀よく待つ	自分の食器を並べたり，片付けたりする	魚の細かい骨をよりだして食べる
の	教師と一緒に自分の食器を並べたり片付けたりする	食前・食後のあいさつをする	身体を良くするために，好き嫌いをしないで食べる
マ	食前・食後のあいさつのしぐさをする	スプーン・フォークやはしを使ってこぼさないように食べる	作法を守って食事をする
ナ	スプーン・フォークやはしを使って食べる	ストローやコップで上手に飲む	食べたい献立の名前を言う
イ	ストローやコップで飲む	必要があれば，茶碗などを手に持って食べる	一人で調味料を上手に使う

＜国語・算数，数学＞

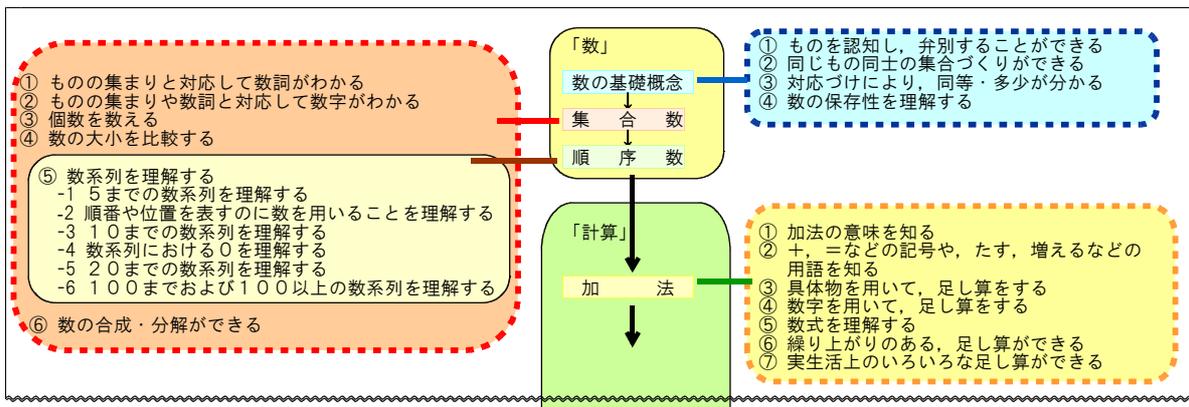
2 段階式「発達に遅れがある子どもの国語」「発達に遅れがある子どもの算数」

●段階式「発達に遅れがある子どもの国語」①ひらがな・単語編 ②カタカナ・漢字・文章編(1995) 近藤原理 編著 学研

●段階式「発達に遅れがある子どもの算数」①数と計算編 ②量と測定編(1995) 藤原鴻一朗 監修 学研

これらの図書は，巻頭に下図のような各学習における指導内容の系統表をまとめ，本文でそれぞれのさらに具体的な段階別の指導目標や指導内容・方法・教材例・生活へ発展させるための工夫等を紹介しています。知的障害のある児童生徒の国語や算数・数学の系統的な指導を把握するために参考になります。

＜内容例＞ 「数と計算」の指導段階表（一部）（「発達に遅れがある子どもの算数」①数と計算編より）



【その他 国語，算数・数学の参考図書】

- 「Step by Step 遅れている子どもを育てる ことば」(1998) 山下 勲ら著 日本文化科学社
- 「Step by Step 遅れている子どもを育てる か ず」(1997) 山下 勲ら著 日本文化科学社
- 「学習レディネス指導シリーズ全3巻 ①読みを育てる ②書きを育てる ③数を育てる」(1993) コレール社
- 「長所活用型指導で子どもが変わる」(1998) 藤田和宏ら著 図書文化（発達レベルが2歳半～7歳くらい）
- 「長所活用型指導で子どもが変わるPart 2」(2000) 藤田和宏監修 図書文化（発達レベルが小1～小3くらい）
- 「くらしに役立つ国語」(2007) 大南英明編集 東洋館出版（中・高等部の軽度の生徒対象，「数学」，「社会」もある）

【資料6】

<身辺処理・基本的生活習慣>

3 段階式「発達に遅れがある子どもの日常生活指導」

●段階式「発達に遅れがある子どもの日常生活指導」①食事指導編 ②着脱・洗面・入浴編 ③排泄指導編(1998) 弘済学園 編著 学研
この本は、①食事指導編 ②着脱・洗面・入浴編 ③排泄指導編の3種類が出版されています。「状態把握のためのチェックリスト」「項目別難易度表」を活用することで、実態把握や指導目標を設定できます。また、課題毎に、さまざまな要因やそれに対応したアプローチ、指導段階、事例の紹介があり、基本的生活習慣を指導する際に非常に参考になります。

<内容例> ②着脱・洗面・入浴編 「着脱に関する状態把握のためのチェックリスト」より (一部)

8. ボタンの はめ・ はずし	① はずし方	ボタンを引っ張る 前たてを反対の手で引っ張る ボタンを穴の中へ押し込む	ボタンの大小に関係なくはずせる ボタンホールが窮屈でもはずせる
	② はめ方のでき具合(1)	大きいボタンならはめられる 小さいボタン(ワイシャツのボタン)もはめられる	
	(2)	着衣した状態ではめられる 下に置いた状態ならはめられる	
	(3) そで口、えり元のボタンもできる		
	③ はめる手順	(1) ボタンを指先でつまむ (2) 片方の手の指で穴をとらえる	

<社会生活能力>

4 「新版 S-M社会生活能力検査」 検査項目

●「新版 S-M社会生活能力検査」(1980) 三木安正監修 日本文化科学社
この検査は、1歳から中学生程度までの社会生活能力を測定する検査です。この検査における社会生活能力とは、「身辺自立」「移動」「作業」「意志交換」「集団参加」「自己統制」から構成されています。この検査の標準化作業によって基本的社会生活能力(社会の中で自立して一人で生活することができる力)はおよそ13歳でほぼ上限に達することがわかっています。

指導課題別段階表としては、この検査の項目ではやや粗いかもしれませんが、就労や社会自立という点から、現在の児童生徒がどのくらいの段階にいるかを大まかに把握するには適しています。また、どの能力が強いのかという強みを発見するのにも役立つと思います。

<内容例> 8歳6か月以上の項目

*番号は検査の番号、以下は項目と段階毎にまとめ、表にしたもの

項目	身辺自立	移動	作業	意思交換	集団参加	自己統制
VI 8歳6か月 ~ 10歳5か月	94 言われればひとり で部屋の掃除がきちんと とできる(親が手伝わ なくてもまかせること ができる) 96 天候やその日の活 動に合わせて衣服の調 節が自分で行ける	98 慣れたところなら 電車やバスを使ってひ とりで行ける(切符が 買える) 103 はじめての所でも 道順を教えれば歩いて 行ける(歩いて20分く らいの範囲) 108 かなり遠いところ でも自転車で行って帰 ってこられる 111 行き慣れた所な ら、乗り換えのあると ころでも電車やバスで ひとりで行ける	100 掃除機・洗濯機 などの家庭電器器具が 扱える 105 ガスや電気コンロな どを使ってお湯がわか せる 109 お湯をわかしてひ とりでお茶の用意がで きる	104 目上の人にはて いねいなことばを使 える(ふだん、仲間ど うして使うようなぞ んざいなことばづか いはしない) 107 わからない言葉 や表現を辞書で調べ ることができる	99 年下のこどもの 世話や子守などを安 心してまかせられる 101 野球(ソフトボ ール)、バスケットボ ール、サッカーなど をルールに従ってで きる 110 学校全体の役割 (児童会の委員など) ができる	95 注意さなくても 人話や説明をわりま で静かに聞くこと ができる 97 手の立場や持ち を考え、困ることや、 無理な要求しない 102 計画的にこづい を貯めてものを買 うことができる 106 幼児や老人な どをいたわることが できる(自発的に物 の中で席ゆずったり)
VII 10歳6 か月 ~	112 花を飾ったり、絵 を貼ったりして、自分 の部屋や教室をきれい にしようとする 115 自分の容姿に気を 配り、場所や時にふさ わしい服装をする 118 食事作法をきちんと 守れる	120 必要に応じて乗物 の時刻表や料金表を利用 できる 127 はじめての所 でも、人に道をたずねたり、 地図で調べてひと りで目的地へ行ける 129 知らないところ でも交通機関を適 当に利用してひと りで行ける	114 ボタンつけが できる 117 ナイフや包丁で果 物や野菜の皮がむけ る 119 簡単なおかずなら 作れる 130 簡単な電器器具(コ ンセント、ソケットなど) の修理ができる	121 相手の立場を考 えて話すことができ る 122 新聞の記事や小 説などを読んで理解 できる 125 テレビのニュース や時事に関心をも つ 128 敬語を正しく使 い分けられる	123 日常接している 学校や地域の友達以 外の人間関係にも関 心をもつ 126 大人の指導者が いなくても、グループ で合会やハイキング、ス ポーツなどの計画を 立てて実行することが できる	113 一度にたくさん のこづかいを持たせ てもむだづかいしな い 116 病気にかから ないように自制す ることができる 124 いわれなくても 自分で計画を立て て勉強をする

【資料6】

＜基本的生活習慣・社会生活能力＞

5 「社会的自立のための指導プログラム」

●「指導年齢がわかる 自立と社会参加を実現する個別の指導プログラム」(2006) 上岡一世 著 明治図書

この本は、子ども達が将来生きていく上で最小限必要であると思われる795の指導課題をチェックリスト化しています。基本的生活習慣、集団参加、くらしの技術、職業意識の4領域の各指導課題を2歳から12歳まで、1歳間隔で整理しています。

著者は、「まず4歳までの指導課題が完全にできるようになることを目標とします。4歳までののが完全にできるようになれば、自立の基礎はできたといえます」とし、4歳が通過すれば、次は9歳を目標に取り組み、「9歳が通過できれば、実社会でも十分にやっつけられる力が身についている」と書いています。新版S-M社会生活能力検査と共に使用することで、発達年齢に応じた指導課題を適切に指導するのに役立つと思われます。

＜内容例＞指導年齢2歳「基本的生活習慣」の一部

項目	年齢段階			指導課題	第1回 評価	課題 通過 年月日	所見	できないときの指導のポイント
	健 常	精 薄	自 閉					
基本 的 生 活 習 慣	2	2	2	口周辺を自分で洗うことができる(清潔-洗顔)				食事の後に汚れた口周辺を鏡で見せ、汚れを確認させます。手に水を付けて洗い流すことを指導します。汚れを洗うことが洗顔の最初の指導です。
	2	2	2	ぬれた手で顔をなでることができる(清潔-洗顔)				手に水をつけて顔をなでることが難しい子は、顔をたたくことを教え、徐々になでる動作に移行していきます。
	2	2	2	汚れた手足を水にぬらすことができる(清潔-手足)				手洗いの前段階の指導になります。水遊びをかね、手や足を水の中に入れて、ばちばちやできるようにします。
	2	2	2	はなが出たら知らせることができる(清潔-はな)				はなが出たら拭くことを気付かせるためには、はなが出たままの状態を放置しないことです。鏡を見せ気付かせることも大切です。
	2	2	2	介添があれば、はなをかむことができる(清潔-はな)				まず、口を閉じて、右、左、両方のはなから息を大きく出すことを教えます。はなが出たときではなく、出ていないときに練習します。
	2	2	2	ブクブクうがいができる(清潔-口)				口の中に水を入れずに、ブクブクができるように口のふくらませ方を練習します。できだしたら、水を少しずつ入れ練習します。
	2	3	3	汚れたら報告できる(清潔-衣服)				汚れを叱ることは避け、汚れたら楽しく着替えさせます。身振り、手ぶりなどのサインを見逃さないようにし、わずかなサインでもほめます。

＜就労支援＞

6 「就労支援のためのチェックリスト」

●独立行政法人 高齢・障害者雇用支援機構障害者職業総合センター (H18 8月 厚生労働省発表)

<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2006/08/dl/h0823-1a.pdf>

平成18年8月厚生労働省から発表された障害者の一般就労へ向けた支援を円滑に行うための共通のツールです。以下にその目的を活用の手引きから抜粋して紹介します。

『就労移行支援事業者が、支援対象者(以下「対象者」という。)について個別支援計画を作成し、支援を進めていく中で使用します。これにより、対象者の就労移行についての現状を把握するとともに、対象者の変化、支援の効果等を見ることができます。すなわち、このチェックリストは、就労移行の可能性の高低を評価するものではなく、就労移行支援事業者等において支援すべき事項を明らかにするためのものです(抜粋)。』

この作成の目的から考えると、高等部の個別の指導計画等への活用や、情報交換のツールとしての活用が望まれていることとなります。実習の前後等に定期的にチェックを行うことで、一般就労に向けて課題として取り組むべき事項を確認することができるのではないかと思います。(WORD版のダウンロード：http://www.nivr.jeed.or.jp/research/kyouzai/19_checklist.html)

＜内容例＞ 必須・参考チェック項目一覧 及び チェック表(一部)

「必須チェック項目」一覧

日常生活	<ul style="list-style-type: none"> 起床・生活リズム・食事・服薬管理 外来通院・体調不良時の対処・身だしなみ 金銭管理・自分の障害や症状の理解 援助の要請・社会性
働く場での対人関係	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ・会話・言葉遣い 非言語的コミュニケーション・協調性 感情のコントロール・意思表示・共同作業
働く場での行動・態度	<ul style="list-style-type: none"> 一般就労への意欲・作業意欲 就労能力の自覚・働く場のルールの理解 仕事の報告・欠勤等の連絡・出勤状況 作業に取り組む態度・持続力・作業速度 作業能率の向上・指示内容の理解 作業の正確性・危険への対処 作業環境の変化への対応

「参考チェック項目」一覧

<ul style="list-style-type: none"> 仕事の自覚性・仕事の準備と後片付け・巧緻性 労働福祉的知識 家族の理解・交通機関の利用・指示系統の理解 数量・計算・文字

必須チェック項目

以下の各チェック項目について、最もよくあてはまるもの1つに○をつけて下さい。

1 日常生活

チェック項目	自由記述欄
I-1. 起床 ①決まった時間に起きられる ②だいたい決まった時間に起きられる ③決まった時間にあまり起きられない ④決まった時間にほとんど起きられない ⑤決まった時間に起きられない	
I-2. 生活リズム ①規則正しい生活ができる ②だいたい規則正しい生活ができる ③規則正しい生活があまりできない ④規則正しい生活がほとんどできない ⑤規則正しい生活ができない	
I-3. 食事 ①規則正しく食事をとることができる ②だいたい規則正しく食事をとることができる ③規則正しく食事をとることがあまりできない ④規則正しく食事をとることがほとんどできない ⑤規則正しく食事をとることができない	

【資料6】

<重度障害・自閉症など>

7 「津守一乳幼児精神発達検査」質問紙より

●「津守一乳幼児精神発達診断法」・0～3歳まで(1961)・3～7歳まで(1991) 津守真ら著 大日本図書

重度の障害のある児童生徒は、領域によっては6ヶ月くらいの発達であることもあります。そのため、乳幼児期の発達の段階をおさえておくことは、指導目標を設定する際に大切なことです。

<内容例> 0歳1ヶ月～2ヶ月

歳月	1 運動	2 探索・操作	3 社会	4 食事	*項目別に表にしたもの 5理解・言語
0 1 か 月	1 寝ていて自由に首の向きを変える 2 裸にしたとき、入浴の時など足をピンピンさせる 3 体にかけてあるもの(おしめ、毛布など)をけとばす 4 膝の上に立たせると足を突っ張る	1 触れた物を握っている 2 手を開いたり閉じたりする 3 物音(ドアの開まる音)などにビクッとす	1 物、顔などをじっと見つめる 2 快いときに一人笑いをする	1 空腹時に抱くと顔を乳の方に向けてほしがる 2 よだれかけ、そでなどところかまわず吸う	1 話をするように声を出す
0 2 か 月	5 立てて抱いても首がふらふらしない(立てて抱かれることを好む)	4 音のした方に首をまわす 5 手を口にもっていつてしゃぶる 6 がらがら、顔などを目で追う 7 機嫌の良いときはあたりを見回して声を出したり、手足を動かしたりして一人で遊ぶ	3 あやすと顔を見て笑う 4 泣いているときに人が来ると泣きやむ 5 あやすと泣きやむが人が離れると泣く	3 お腹がいっぱいになると乳首を舌で押し出したり顔を背けたりする	
	6 知らないうちに、体の位	8 抱いて歩くとあたりをき	6 そばを歩く人を目で追う	4 乳を飲むときに哺乳瓶	

<ことば・コミュニケーション>

8 「障害の重い子どものコミュニケーション評価と目標設定」

●「障害の重い子どものコミュニケーション評価と目標設定」(2007) 坂口しおり著 ジアース教育新社



インリアル・アプローチ(楽しく意味のあるやりとりをする中でコミュニケーションの力を伸ばす)によるコミュニケーションの評価と支援の方法をまとめたものです。肢体不自由を併せもつ障害の重い子どもたちの前言語期段階のコミュニケーション指導を行う際に大変参考になる図書です。付録として「重度障害児のコミュニケーション発達評価シート」がついています。理論や実践例等については、姉妹図書の「コミュニケーション支援の世界ー発達とインリアルの視点を取り入れてー」が参考になります。

<ことば・コミュニケーション>

9 「認知・言語促進プログラム」

●「認知・言語促進プログラム NCプログラム」(1998) 津田 望ら監修 コレール社

認知・言語促進プログラム(通称:NCプログラム)は、のぞみ発達クリニックで開発された発達障害児のための指導プログラムです。発達年齢6ヶ月から6歳までのあらゆるタイプの発達障害児に使用でき、アセスメント、評価、指導課題が一体化しているため、個別の指導計画の作成にも役立ちます。「視覚操作」「言語」「記銘」「文字」「数」「運動」の6領域にわけて評価します。シンボルやサインなどの補助・代替コミュニケーション(AAC)手段を用いた評価を取り入れています。



【スターターズキット】

<ムーブメント教育>

10 「ムーブメント教育プログラムアセスメント(MEPA-II)」

●「乳幼児と障害児の感覚運動アセスメントマニュアル」(1992) 小林芳文著 コレール社



ムーブメント教育とは、楽しみながら体を動かすことで、運動機能、感覚機能を発達させていく方法です。MEPA-IIは、特に発達が重度に遅滞し、活動や行動に制限の著しい障害児のためのアセスメントです。「運動・感覚」と「コミュニケーション」の2分野で構成されています。このアセスメントと連携した指導書として、「重度重複障害児(者)の感覚運動指導(全3巻)」(小林芳文編著:コレール社)が用意されています。

【資料6】

<自閉症>

11 「新訂 自閉症・発達障害児 教育診断検査 (PEP-R)」

●「新訂 自閉症・発達障害児教育診断検査」(1995) E・ショブラー著 茨木俊夫訳 川島書店



PEP-R(ペップアール)は、TEACCH部で開発された、幼児期・学齢期(6ヶ月から12歳程度)にある自閉症スペクトラムの子ども達の教育に大きな示唆を得ることのできる教育診断ツールです。PEP-Rで得られた結果は、個別の指導計画の作成に生かすことができます。

特色は、発達尺度と行動尺度の二つがあり、自閉時の不均衡で得意な学習パターンを見極めることができること、ほとんどの項目が言語なしに実施できること、実施方法が柔軟であり、子どもの行動に合わせて実施できること、時間制限がないこと、重度の障害児にも興味をもてる用具

【PEP-R 検査器具】が使用されていること、誰でも成功できるような幅広い発達レベルが用意されていることです。

PEP-Rで得られた結果を基に「自閉症児の発達単元267-個別指導のアイデアと方法」(E・ショブラー編著、佐々木正美訳)を参考にすると、具体的な教材や手だてを得ることができます。

<自閉症>

12 「青年期成人期自閉症教育診断検査 (AAPEP)」

●「青年期成人期自閉症教育診断検査」(1997) 日本AAPEP研究会 著 川島書店

PEPの青年期、成人期版(生活年齢12歳以上)です。評価システムはPEP-Rと同じ「合格」「不合格」「芽生え反応」の三段階を採用しています。しかし、PEP-Rでは、自閉症児の知覚、運動、言語などの機能の発達水準に注目し、支援の主眼が基礎的な「機能の発達」の考えに立っているのに対し、青年期以後の評価を目指したAAPEPでは、家庭や地域社会における日常生活、余暇活動や就労のために必要な適応活動のための機能を評価します。

自閉症児の自立活動や作業学習等の目標を考えるときに参考になるとと思われる資料です。「直接観察尺度」「家庭尺度」「学校・作業所尺度」の3尺度領域で構成されています。

<内容例> AAPEP (学校/作業所尺度)

<職業スキル>

種類の違うボタンや釘などの小さな物を分類できますか?

- P 指導しなくてもほとんど間違いなく分類できる。
- E 指導しなるとしばしば間違えるため、ときどき注意する必要がある。
- F 常に指導しなければ、小さな物を分類できない。

※15分間にいくつくらい、分類することができますか?
(個程度)

3個以上の部品を組み立てる作業ができますか?

- P 1~2度実演してみせれば、ボールペンを組み立てたり、ボルト、ナット、ワッシャーなどを組み立てたりすることができる。
- E しばしば注意したり、実演してみせたりしなければ、組み立てることができない。
- F 常に指導しなければ、3個の部品を組み立てることができない。

書類に記された印とホルダーやファイルに記された印を組み合わせ、書類を整理できますか?

- P ほとんど間違いなく書類を整理できる。
- E ときどき指導したり、身ぶりでヒントを与えたりすれば、わずかに(1~10程度)間違えるもの、書類を整理できる。
- F 常に指導しなければ、正確に書類を整理できない。

はさみやホッチキスなどの簡単な道具が使えますか?

- P 一度実演してみせれば、指導しなくても適切に使える。
- E ときどき指導し、実演を繰り返せば、簡単な道具を適切に使える。
- F 常に指導しなければ、簡単な道具でも使えない。

<自閉症>

13 「認知発達治療の実践マニュアル 自閉症のStage別発達課題」

●「認知発達治療の実践マニュアル 自閉症のStage別発達課題」(1992) 太田 昌孝ら編著 日本文化科学社

「太田ステージ」と呼ばれているものです。自閉症の特有な認知の特徴を踏まえた上で、ピアジェ等の発達理論を参考に設定した認知発達段階を表し、Stage別の発達課題が具体的に紹介されており、個別の指導目標の設定に役立ちます。

認知発達治療とは、自閉症圏の人たちの発達段階を太田ステージによっておさえ、ステージ毎の発達課題に取り組みつつ、その人達の適応行動の拡大や問題行動の減弱や克服を図っていく治療法です。



【太田ステージの評価の検査器具】

【資料7】

個別の指導計画作成チェックポイント

	チェック項目	チェック
実 態 把 握	① 子どもがつまづいている領域を把握したか	
	② 子どもがつまづいている課題を把握したか	
	③ 子どもがどこまで習得しているかを把握したか	
	④ 子どもの得意な力を把握したか	
	⑤ 子どもがつまづいている要因を推定したか	
	⑥ 子ども本人のニーズを把握したか	
	⑦ 家族のニーズを把握したか	
目 標 の 設 定	① 目標の優先順位は決めたか	
	② 基本的なつまづきからアプローチしているか	
	③ 他の領域や課題への影響を考慮したか	
	④ 次につながるような目標を設定したか	
	⑤ 日常生活・社会自立といったことを考慮したか	
	⑥ 子ども本人のニーズを考慮したか	
	⑦ 家族のニーズを把握したか	
	⑧ 立てた目標について他の人の意見を聞いたか	
指 導 計 画 の 作 成	① 目標が1つにしぼられているか	
	② 肯定的な目標になっているか	
	③ 評価（○×）できるような目標になっているか	
	④ 子どもの強い力を利用しているか	
	⑤ 課題の順序は適切か	
	⑥ 手だての量は適切か	
	⑦ 必要に応じて、計画の見直しや修正を行ったか	
指 導 の 展 開	① 集中時間の配慮はしたか	
	② 無理のない課題配分にしたか	
	③ 抵抗感、二次的な障害への配慮はしたか	
	④ 動機付けを高められるような工夫はしたか	
	⑤ 有能感、達成感を味わえる工夫はしたか	
	⑥ 課題の正誤チェック（記録・評価）はしたか	
	⑦ 達成水準のチェックはしたか	
	⑧ 課題の順序が適切であったのかチェックはしたか	
	⑨ 手だての内容・量はチェックしたか	
	⑩ 指導前の仮説と整合性はあったか	
評 価	① 目標や達成度を適切に評価したか	
	② 指導内容や方法の評価は行ったか	
	③ 来学期、次年度の計画を作成したか（ビジョンはあるか）	
	④ 保護者への報告・説明を行ったか	
様 式 ・ 書 式	① 子どもの「実態」と「目標」との関係がわかりやすくなっているか	
	② 「長期目標」と「短期目標」とを明確に対処させるようになっているか	
	③ 「短期目標」にはそれぞれの手だても併記できるようになっているか	
	④ 評価の欄が「目標に対する評価」と「手だてに対する評価」に明確に分けられているか	
	⑤ 目標と評価、その結果を、さらに次の目標が併記できるようになっているか	

『個別の指導計画作成ハンドブック』（海津亜希子 2007）を参考に作成

●●● コラム 2 ●●●

「一人一人のニーズに応える弾力的な教育課程の編成」

教育課程の編成は、管理職や一部の職員だけで行うものではありません。全教職員が学校教育目標への共通理解をもち、それに向けた教育活動を各学年や発達の段階別に組み立て、学校全体として一つの教育課程を編成していく過程や意識が不可欠です。

教育課程の検討は毎年、どこの学校でも行われていますが、学校全体として、小学部から高等部までの組織的、系統的な学習の道筋ができているか、学校教育目標が地域や児童生徒・保護者、教職員の願いを具現化したものになっているかを全教職員で、検討・確認する必要があります。

児童生徒一人一人のニーズに応えるためには、一人一人の発達段階や障害の特性、家庭・地域の環境や本人・保護者の願いなどを十分に把握し、児童生徒一人一人に沿った将来の姿を思い描き、本人・保護者・教師の共通の願いとして据えること、また、その実現への道筋を教育課程の中に描いていくことが大切です。

そのため、教育課程も固定したものではなく、一人一人のニーズに応える弾力的なものである必要があります。

ここでいう弾力的とは、どのような障害種や発達段階の児童生徒であっても、そのニーズに応じて、指導内容や指導体制（個別・グループ別）を柔軟に変えることのできるものであったり、児童生徒の実態に応じて類型化したり、選択教科を取り入れるなどの、工夫された教育課程のことです。

教育課程とは、週あたりの単位時間をまとめた表を指すだけでなく、各教科等の重点的なねらい、評価の在り方、具体的な指導内容や課題の配列（年間の指導計画）、時間割の編成など、教育活動に必要な全ての計画が含まれます。

特別支援学校となったことで、単一の障害種（知的障害）に対応した教育課程だけでは、児童生徒のニーズや実態に応じられなくなる可能性が高くなりました。発達障害の児童生徒や肢体不自由等の児童生徒には、準じる教育の場としての教育課程も用意する必要があり、それに対応できる専門性も必要です。近隣の学校との交流・共同学習を進める上でも、弾力的な教育課程の編成は不可欠です。

一人一人のニーズに応じた弾力的な教育課程を編成するためには、児童生徒の教育にあたる全ての教職員が知恵を出し合い、創意工夫をこらしながら、「計画→実行→評価→改善」のサイクルを確実に実践していくことが必要です。

